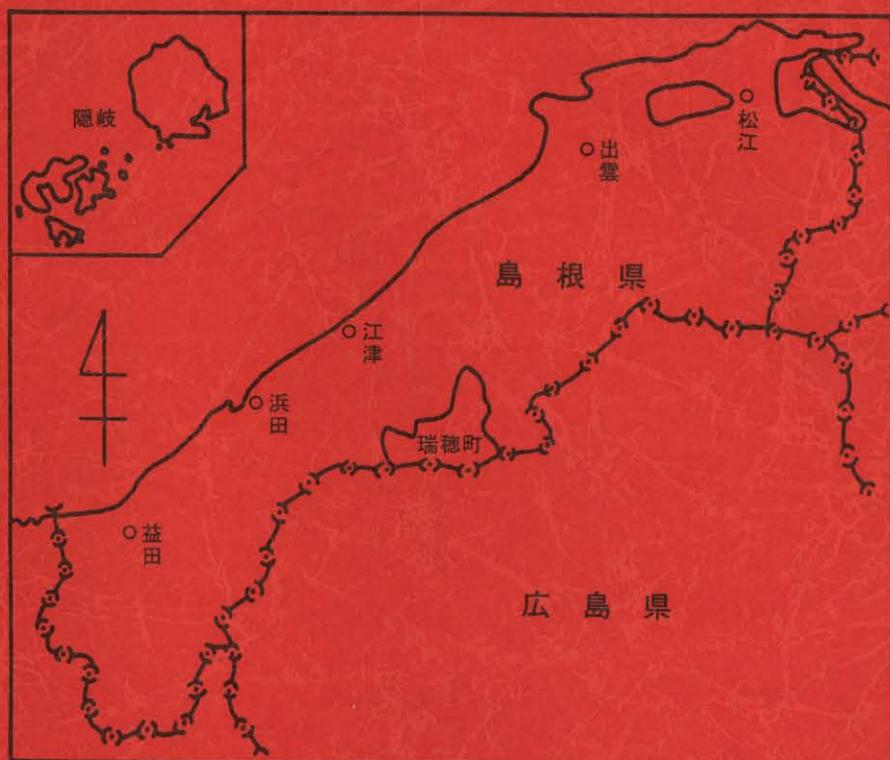


島根県邑智郡瑞穂町

小田遺跡発掘調査報告書

悠YOUおおち南地区県営中山間地域総合整備事業農業
集落道路永明寺線改良工事に伴う発掘調査報告書



1999年3月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は農林業を町の基幹産業と位置づけて、農道や林道の整備を進めてまいりました。

この度、農業集落道路永明寺線改良工事予定地内に遺跡が所在することが明らかになり、工事に先立って発掘調査を実施いたしました。この報告書はその結果をまとめたものです。発掘調査は限られた範囲で、遺跡の全容を明らかにすることはできませんでしたが、今回の成果が地域の歴史や周辺の遺跡を考える資料の一助になれば幸いです。

なお、今回の発掘調査にあたりご指導をいただきました関係機関や、お力添えをいただきました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成11年3月

瑞穂町教育委員会

教育長 三宅正隆



瑞穂町域と小田遺跡位置図

例　　言

1. 本書は島根県邑智郡瑞穂町大字鱒淵3061-1番地における農業集落道路永明寺線改良工事に伴い、平成10年8月25日から10月8日にわたって実施した小田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は島根県川本農林振興センターから委託を受けて、瑞穂町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆編集は森岡弘典が行った。
4. 本書掲載の図面作成は森岡弘典が行った。
5. 本書に掲載した地形図（第1図）は建設省国土地理院長の承認を得て（承認番号平成7中複第276号）同院発行の25,000分の1を複製した瑞穂町管内図を使用したものである。
6. 本書の地形図に表示したX軸Y軸は国土調査法による第Ⅲ座標系の軸方向である。地形測量図、遺構測量図の矢印方向は磁北を示している。
7. 調査記録、出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。
8. 本書に掲載した遺物の略号は、Y（弥生土器）、SU（須恵器）、ST（石器）である。
9. 調査前地形測量は測地技研株式会社に委託した。

小田遺跡発掘調査報告書

目 次

	頁
I. 調査に至る経緯および経過.....	1
II. 小田遺跡の位置と環境.....	3
III. 調査の概要と出土遺物.....	7
IV. まとめ.....	13

図版・挿図目次

図版第1 a. 小田遺跡全景（西から） b. 同（東から）	
図版第2 a. 第1調査区完掘状況（東から） b. 同（西から）	
図版第3 a. 第1調査区完掘状況（西から） b. 第2調査区土坑土層断面（西から）	
図版第4 a. 土坑完掘状況（北から） b. 第2調査区東端崖面上土層（北から）	
図版第5 a. 第2調査区東端崖面上土層（東から） b. 第2調査区完掘状況（東から）	
図版第6 第2調査区完掘状況（西から） b. 第3調査区完掘状況（西から）	
図版第7 第1調査区出土遺物（外面） b. 同（内面）	
図版第8 第2調査区出土遺物（外面） b. 同（内面）	
図版第9 第3調査区出土遺物（外面） b. 同（内面）	
図版第10 第3調査区出土遺物（外面） b. 同（内面）	
 第1図 小田遺跡付近遺跡分布図（1:25000）	5
第2図 小田遺跡周辺地形測量図・調査区設定図	6
第3図 第1調査区調査後地形測量図（1:150）	7
第4図 第1調査区出土土器実測図（1:3）	8
第5図 土坑実測図（1:40）	8
第6図 第2調査区出土遺物実測図	9
第7図 第2調査区調査後地形測量図（1:100）	9
第8図 第3調査区出土土器実測図①（1:3）	10
第9図 第3調査区出土土器実測図②（1:4）	10
第10図 第3調査区調査後地形測量図（1:100）	10
第11図 第1・2・3調査区土層実測図（1:40）	11・12

I. 調査に至る経緯および経過

今回発掘調査を実施した小田遺跡は、島根県邑智郡瑞穂町大字鱒淵字小田3061-1番地に所在し、農道永明寺線に隣接する。

農道永明寺線は、国道261号と町道鱒淵馬野原線を結ぶ重要な連絡道路として利用されてきたが、幅員3.0～3.5mと狭小で、交通量が年々増大し道路の機能としても安全面においても低下し、恒常に通行に支障をきたしていたので、地元から改良の要望が強くなっていた。このような地元の要請を受けて、島根県川本農林振興センターが事業主体となり、平成8年度より事業が開始されることになり、事前に埋蔵文化財の取扱について協議を行った。すでに詳細分布調査により工事予定地周辺の遺跡については周知していたので、遺跡に影響ないよう改良計画がなされたが、島根県文化財保護指導委員吉川正氏により、崖面に土器が露頭しているのが確認され、遺跡の所在が明らかとなった。

平成10年7月27日に文化財保護法第57条の6第1項により文化庁長官へ遺跡発見の通知を行い、遺跡の取扱について川本農林振興センターと協議を実施した。既に工事は農道の起終点双方から進んでおり、遺跡の所在する部分の切取り工事を残すのみであり、計画変更は困難であることが判明した。また道路の公共性を勘案すると早期の供用開始が必要であり、当初計画での工事も止むをえないとの結論に達し、平成10年8月25日から10月8日にわたり次の体制で発掘調査を実施した。

調査主体 瑞穂町教育委員会

調査員 森岡弘典（瑞穂町教育委員会主幹文化財係長）
藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主幹）

調査指導 島根県教育委員会文化財課
吉川 正（島根県文化財保護指導委員）

事務局 三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）
河野義則（瑞穂町教育委員会教育課長）
野田律子（瑞穂町教育委員会課長補佐）
平川 進（瑞穂町教育委員会課長補佐）

整理作業 市山真弓（瑞穂町教育委員会）

発掘作業 飯石サツミ、石川義明、石原千枝子、今田徳朗、漆谷勉、岸根喜行、吉川正見、国信勇之進、佐藤三郎、洲濱軍太郎、高川秀夫、高梨数男、戸津川里美、戸津川孝夫、野田正治、日高一人、久光花枝、日高武司、日高政雄、古川健二、松川福義、松島利

郎，三上カメノ，森田ユキエ

なお，発掘調査を円滑に進めるために，島根県川本農林振興センター農村総合整備係長大谷和彦氏，町田土建(有)町田修平氏には多大なご協力とご配慮をいただいた。記して謝意を表したい。

調査日誌抄

1998（平成10）年

7月27日 文化財保護法第57条6第1項により小田遺跡発見の通知書提出。

7月28日 川本農林振興センターと遺跡の取扱について協議。

8月17日 発掘調査の協定を締結。

8月19日 発掘調査業務委託契約締結。

8月20日 文化財保護法第98条の2第1項により埋蔵文化財発掘調査の報告書提出。

8月24日 発掘調査現場に調査用機材搬入。

8月25日 本日より発掘調査開始。作業員に調査方法の概要を説明し調査区を設定する。

調査区は西側丘陵を第1調査区，中央鞍部付近を第2調査区，東側丘陵を第3調査区とし，第1調査区から表土除去作業に取りかかる。

8月26日 第1調査区の表土除去作業。多量の礫が出土。遺構か自然礫か現段階では不明。遺物は弥生土器1点，須恵器1点。

8月27日 第2調査区で土坑検出。

8月28日 第2調査区の土坑半裁。覆土（黒色土）除去作業。黒色土中より弥生土器1点出土

8月31日 第1調査区範囲を拡張する。引き続き第2調査区調査。

9月1日 第1調査区の精査。礫群は自然礫と判明。第2調査区土坑精査。午後吉川正氏調査指導。

9月3日 第2調査区黒色土中より黒曜石の剥片1点出土。

9月7日 第1調査区セクション実測。第2調査区調査。第3調査区調査開始。

9月8日 第3調査区中央付近で須恵器片1点，調査区東端で須恵器片2点出土。

9月16日 長雨で中止していた調査再開。

9月17日 第2調査，第3調査区精査。セクション実測。

9月21日 第2調査区土坑精査。第3調査区精査。

9月29日 "

10月1日 各調査区写真撮影，実測。

10月5日 "

10月6日 "

10月8日 各調査区の調査実測等終了し調査機材を搬出して現地調査を終了する。

II. 小田遺跡の位置と環境

島根県邑智郡瑞穂町は、島根県のほぼ中央部の邑智郡の南部に位置する。南西には標高600～1000mの中国脊梁山地が連なり、山地を境として広島県に接している。

今回発掘調査を実施した小田遺跡は、瑞穂町のほぼ中央部の瑞穂町大字鱒淵字小田3061-1番地に所在し、瑞穂町役場から約1kmの距離である。

小田遺跡へは役場横を南北に伸びる町道鱒淵馬野原線を約500m北へ走り、三叉路を左折し農道永明寺線に入り約500m直進すると到着する。遺跡の標高は約350mで、北側は瑞穂町を代表する中世の山城二ツ山城跡がそびえ、南側には鱒淵古墳群が所在する狭小な谷状の地形に位置する遺跡である。

ところで瑞穂町内の遺跡は『島根県遺跡地図(石見編)⁽¹⁾』や『瑞穂町内遺跡分布図⁽²⁾』によれば、現在のところ約550か所以上の遺跡が確認されている。その多くが中近世の製鉄遺跡であるが、時期的には旧石器時代から歴史時代に至るまでのものがある。旧石器時代の遺跡では、横道遺跡(高見⁽³⁾)や荒槻遺跡(岩屋⁽⁴⁾)があげられる。また、近年中国自動車横断道路の工事に先行して調査された堀田上遺跡⁽⁵⁾でも旧石器時代に遡る石器が確認されている。横道遺跡は1982年の詳細分布調査によると、丘陵頂部において始良Tn火山灰の下から流紋岩製の石核、剥片類が出土している。遺構などは明らかではないが、後期旧石器時代前半の石器群が存在すると思われる。

次に縄文時代の遺跡では、前述の横道遺跡や中国自動車横断道路の工事に伴って調査された郷路橋遺跡(市木⁽⁶⁾)、堀田上遺跡、川ノ免遺跡(山田⁽⁷⁾)など町内で12か所の遺跡の所在が明らかにされている。

弥生時代の遺跡には、牛塚原遺跡(上亀谷)、野田西遺跡(上亀谷)、順庵原遺跡(下亀谷)⁽⁸⁾、馬場山遺跡(下亀谷)、長尾原遺跡(下亀谷)⁽⁹⁾、川ノ免遺跡など多くの遺跡が全町的に所在する。弥生時代前期から中期にかけての遺跡としては牛塚原遺跡、順庵原遺跡、堀田上遺跡、長尾原遺跡、川ノ免遺跡、沢陸遺跡などが知られている。

1975年、1993年に調査された長尾原遺跡や1997年に調査された沢陸遺跡では弥生時代中期の竪穴住居跡が発見されている。竪穴住居は直径約6mの円形を呈し、いずれも中央部にピットを設けている。これらの遺跡は出羽盆地の南側に位置する河岸段丘上に位置しており、弥生時代の農耕生活が沖積地をのぞむ湧水地点に近いところから始まったことを示しているといえる。

弥生時代後期になると、野田西遺跡や順庵原遺跡、川ノ免遺跡をはじめ多くの遺跡が出羽川の両岸に位置する段丘や丘陵上など流域各地に遺跡が分布するようになる。そして、弥生時代の終わりになると、農耕社会の進展とともに階層の分化が始まった結果、共同体の首長墓としての墳丘墓が出現てくる。順庵原遺跡に隣接する順庵原1号墓は、10m×8mの規模の四隅突出型墳丘墓で、墳丘には箱式石棺墓2基、木棺墓1基の3つの主体がつくられており、主体内部や墳丘周辺の溝からガラス小玉や弥生土器が出土している。

古墳時代になると遺跡はさらに増えてくる。集落関係の遺跡は長尾原遺跡、順庵原遺跡、川ノ免遺跡⁽¹⁰⁾、今佐屋山遺跡(市木)などがある。1968年に調査された長尾原遺跡では、3棟の竪穴住

居跡や土坑墓などが発見されており、製鉄に関する遺構も検出されている。1989年に調査された今佐屋山遺跡¹⁹からも古墳時代後期の竪穴住居跡3棟と製鉄遺構が検出されている。いずれも方形の壁の一辺にはカマドが設置されている。製鉄遺構は1号竪穴住居跡の少し手前にあり、炉床部と土坑からなる。遺構の検出状況や炉内残留滓から炉形は隅丸長方形で規模は45cm×38cmの箱形炉と推定される。古墳は60基以上確認されている。古墳時代前半期のものと推定されるものに20基以上からなる鱒淵古墳群（鱒淵）²⁰や御華山古墳群²¹などがある。いずれも直径10m前後の円墳や方墳で、中には無墳丘のものもあるといわれている。小形の竪穴式石室を内部構造とする段の原古墳（高見）も古墳時代前半期のものと思われる。古墳時代後半期になると、牛塚古墳群（上亀谷）、杉谷古墳群（下亀谷）、石堂古墳群（和田）などのように、丘陵斜面に横穴式石室を内部埋葬施設とする直径10m前後の円墳が築かれている。また、江迫横穴墓群などのような横穴墓もつくられてくる。

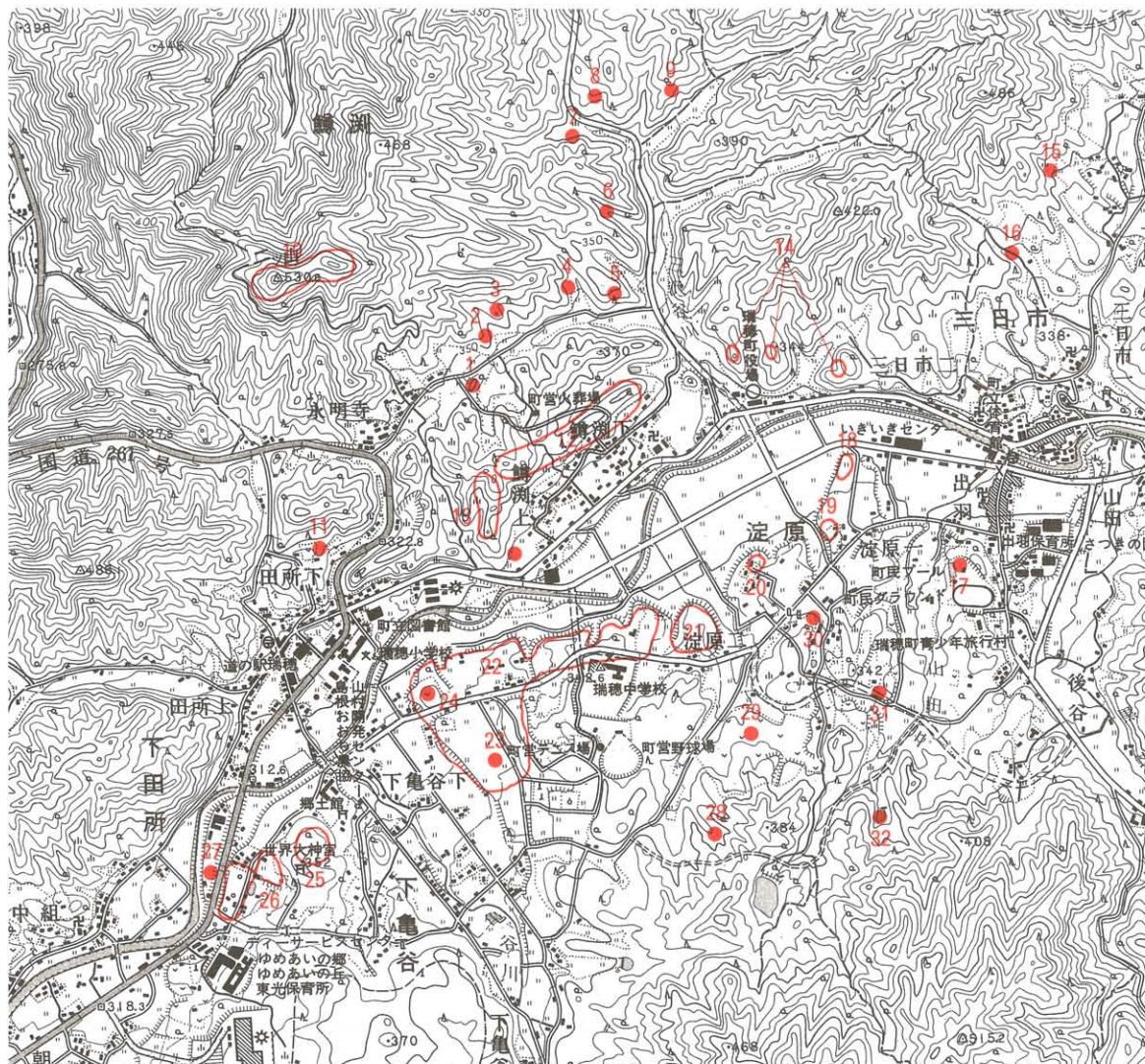
このほか、古墳時代後半から平安時代にかけての須恵器窯跡も数多く分布する。青少年旅行村グラウンド窯跡（出羽）、上菅窯跡（鱒淵）、桜ヶ谷窯跡（同）、清水ヶ尻窯跡（同）など20基ちかくに及んでいる。これらの窯跡は久永古窯跡群と呼称されており、島根県有数の須恵器の生産地であったことが知られている。

歴史時代の遺跡としては、古代の須恵器窯跡、川ノ免遺跡や野田西遺跡の集落跡のほか、中世の山城跡や中近世の製鉄遺跡がある。山城では鎌倉時代に富永（出羽）氏によって築城されたと伝えられる二ツ山城跡や高橋氏の本城跡など多くの山城や砦跡が確認されている。中近世の製鉄遺跡では、製錬場である鉱跡や大鍛冶屋跡が数多く分布し、その数は300か所以上にも及ぶ。また、砂鉄採集の鉄穴場跡、切羽跡は町内全域に分布しており、製鉄が盛んに行われていたことがうかがえる。

註

- (1).『島根県遺跡地図Ⅱ(石見編)』島根県教育委員会 1992年3月
- (2).『瑞穂町内遺跡分布図I・II・III・IV・V』瑞穂町教育委員会 1985,1986,1990,1991,1992年
- (3). 河瀬正利編『横道遺跡—詳細遺跡分布調査報告一』瑞穂町教育委員会 1982年
- (4). 吉川正「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 1976年
- (5).『主要地方道浜田八重可部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—堀田上・今佐屋山・米屋山遺跡の調査一』島根県教育委員会 1991年3月
- (6).「郷路橋遺跡」「中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」島根県教育委員会 1991年3月
- (7).『川ノ免遺跡発掘調査報告書』瑞穂町教育委員会 1996年3月
- (8).『順庵原遺跡発掘調査概要書』瑞穂町教育委員会 1995年
- (9).『馬場山遺跡発掘調査概要書』瑞穂町教育委員会 1991年
- (10).『長尾原遺跡発掘調査報告書I』瑞穂町教育委員会 1994年3月
- (11).『沢瀬遺跡発掘調査報告書』瑞穂町教育委員会 1998年10月
- (12). 吉川正、今岡稔『瑞穂町長尾原F区道場住居址調査報告』瑞穂町教育委員会 1975年
- (13). 門脇俊彦「順庵原1号墳について」『島根県文化財調査報告書』第7集 島根県教育委員会 1971年
- (14). 門脇俊彦「農免道路新設に伴う長尾原遺跡及び長尾原1号墳調査概報」島根県川本農林土木事務所 1969年2月
- (15).「今佐屋山遺跡」「中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV」島根県教育委員会 1992年3月
- (16).『鱒淵4号墳他発掘調査報告書』瑞穂町絵教育委員会 1994年3月
- (17). 門脇俊彦『御華山弥生式墳墓調査概報』瑞穂町教育委員会 1969年2月

なお、上記参考文献以外に『瑞穂町誌』第1集 1964年、第2集 1966年・第3集 1976年を参考にした。

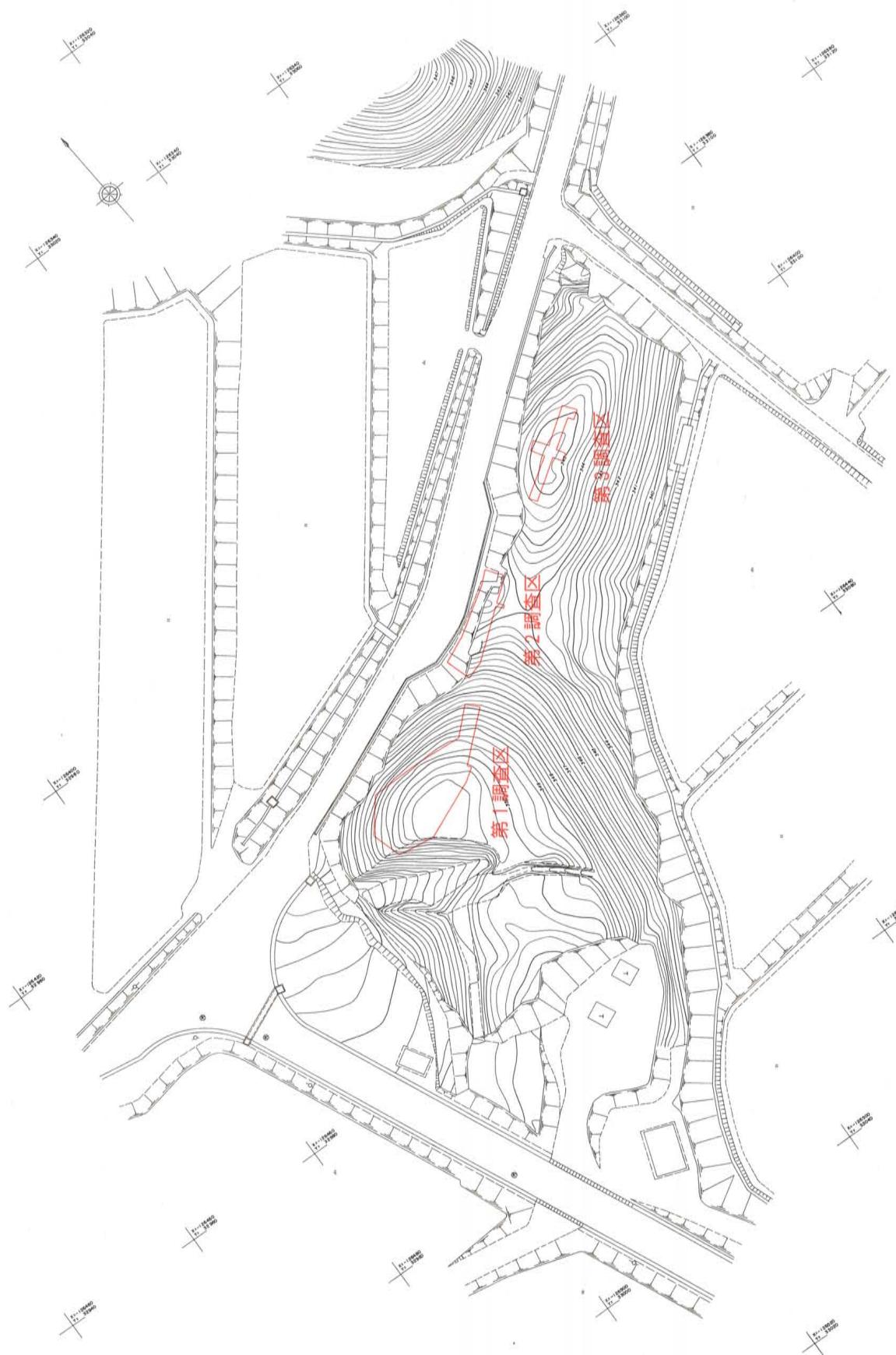


第1図 小田遺跡付近遺跡分布図 (1 : 25000)

- | | | | |
|------------|------------|----------------|------------|
| 1. 小田遺跡 | 9. 上菅窯跡 | 17. 旅行村グラウンド窯跡 | 25. 馬場山遺跡 |
| 2. 清水ヶ尻遺跡 | 10. 二ツ山城跡 | 18. 小絵堂遺跡 | 26. 順庵原遺跡 |
| 3. 清水ヶ尻窯跡 | 11. 増屋横穴 | 19. オセド遺跡 | 27. 順庵原1号墓 |
| 4. 馬場ヶ谷B遺跡 | 12. 鰐渕古墳群 | 20. 淀原遺跡 | 28. 江迫窯跡 |
| 5. 馬場ヶ谷A遺跡 | 13. 御華山古墳群 | 21. 若林遺跡 | 29. 江迫横穴群 |
| 6. カニケ迫遺跡 | 14. 淀田古墳群 | 22. 長尾原遺跡 | 30. 淀原古墳 |
| 7. 定入窯跡 | 15. 宇山窯跡 | 23. 長尾原B古墳 | 31. 沢陸遺跡 |
| 8. 定入遺跡 | 16. 櫻谷遺跡 | 24. 長尾原A古墳群 | |

0 20m

第2図 小田遺跡 周辺地形測量図・調査区設定図



III. 調査の概要と出土遺物

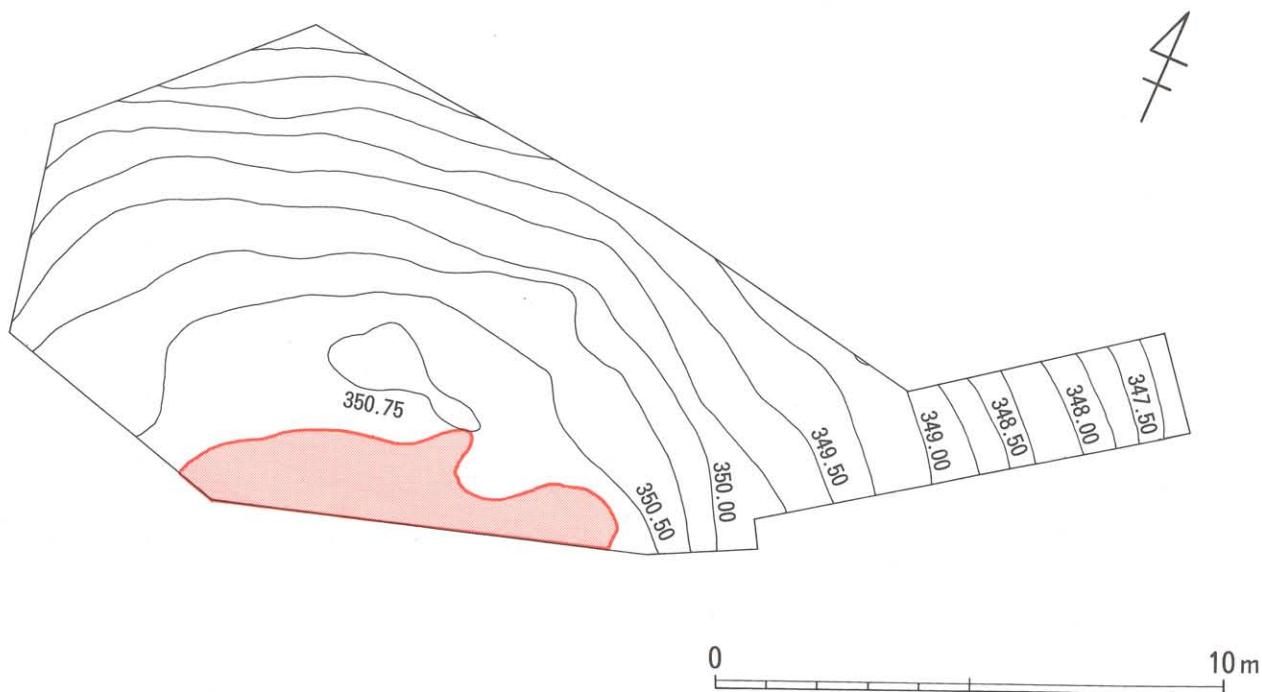
今回の調査は、農業集落道路永明寺線改良工事に伴う発掘調査で、計画予定地内に3か所の調査区を設定し、西からそれぞれ第1、第2、第3調査区と呼称した。調査によって土坑1基と僅かな遺物が出土した。

以下、各調査区の概要と出土遺物について述べる。

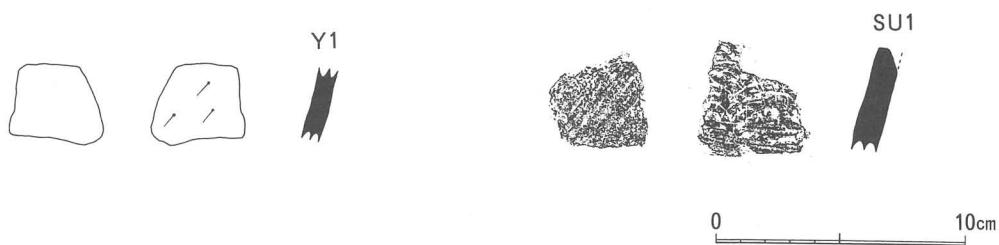
1. 第1調査区（第3・4・11図、図版第2a・b、第7a・b）

丘陵西側に設定した調査区で、調査面積は127m²である。土層は表土、茶褐色土、明黃褐色土（地山）とつづき、茶褐色土層は20~40cmの自然礫を含む。調査区内は全面に自然礫が分布していたが、調査区内最高所の一部（赤アミ目部分）で、意図的に自然礫が除去されたのではないかと推定される平坦部が検出された。遺構等が遺存しているのではないかと精査したが、ピットや住居跡等の遺構は存在しなかった。出土遺物は磨滅した弥生土器片（Y1）と須恵器（SU1）、安山岩の剥片がそれぞれ一点づつ出土した。

Y1は約4×3cmの小片で厚さ7mmある。外面は磨滅が著しくて調整は不明であるが、内面はヘラケズリ調整が認められる。胎土は密で1~2mm程度の砂粒を含み焼成はややあまい。色調は内外面とも淡橙色である。SU1も約4×4cmの小片である。甕の胴部と推定され厚さは1.1cmで器面の調整は外面を格子タタキ、内面を同心円状のタタキ調整を施している。胎土は密で焼成は良好で青灰色を呈している。安山岩の剥片は調査区東側の斜面から出土した。大きさは約0.7~1.2cm、厚さ1mmの小片である。



第3図 第1調査区 調査後地形測量図（1：150）



第4図 第1調査区 出土土器実測図 (1 : 3)

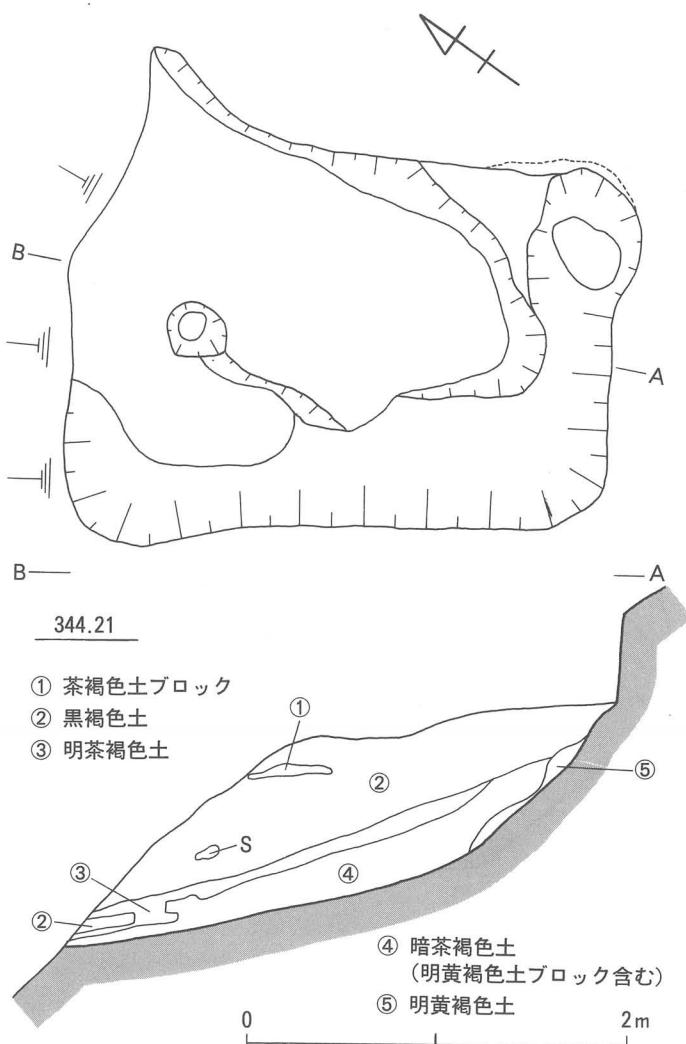
2. 第2調査区 (第5~7・11図, 図版第3b~6a, 第8a・b)

調査地のほぼ中央の鞍部状の地形に設定した調査区で、各調査区の中で最も低部に位置する。調査面積は38.4m²で、土層は表土下に、黒褐色土や黒色が堆積している。

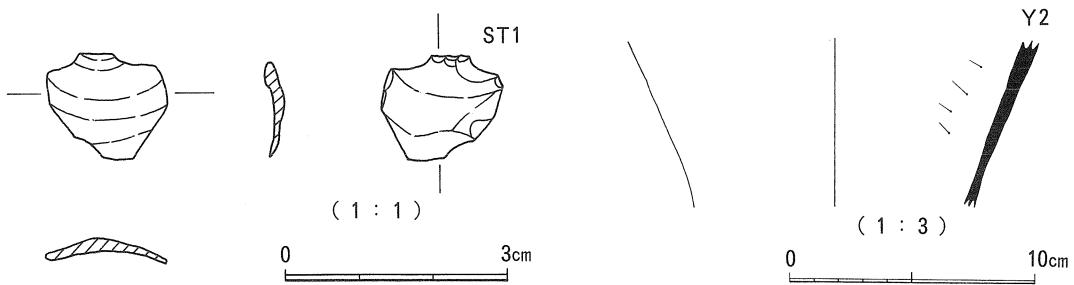
調査区西端で、調査前の表面観察で土坑状の落ち込みが一部認められたので、その部分から調査を開始した。検出された土坑は丘陵北側の斜面に掘り込まれており、規模は長さ約2.9m、幅約2.0mで、形状は隅丸方形を呈している。底部は北側へ約10~40°傾斜しており、残存壁高は南側が約1.3m、西側が0.3~1.7m、東側が0.15~0.4mで一部オーバーハング状に掘り込まれている。土坑の底部には幅約12~13cmの工具で掘削された痕跡が認められる。土層観察からこの土坑は横穴状に掘られたものではなく、斜面を上部から直接掘り込んだものであると考えられるが、土坑に伴う遺物や、熱を受けた痕跡、炭化物は検出されていない。

調査区東側は、以前地山を掘り広げ小屋掛けし農作業小屋として使用されていたところであるが、その掘削崖面に人工的な掘り込みが観察された。しかし、崖面から南側は調査区外となるので詳細については不明である。

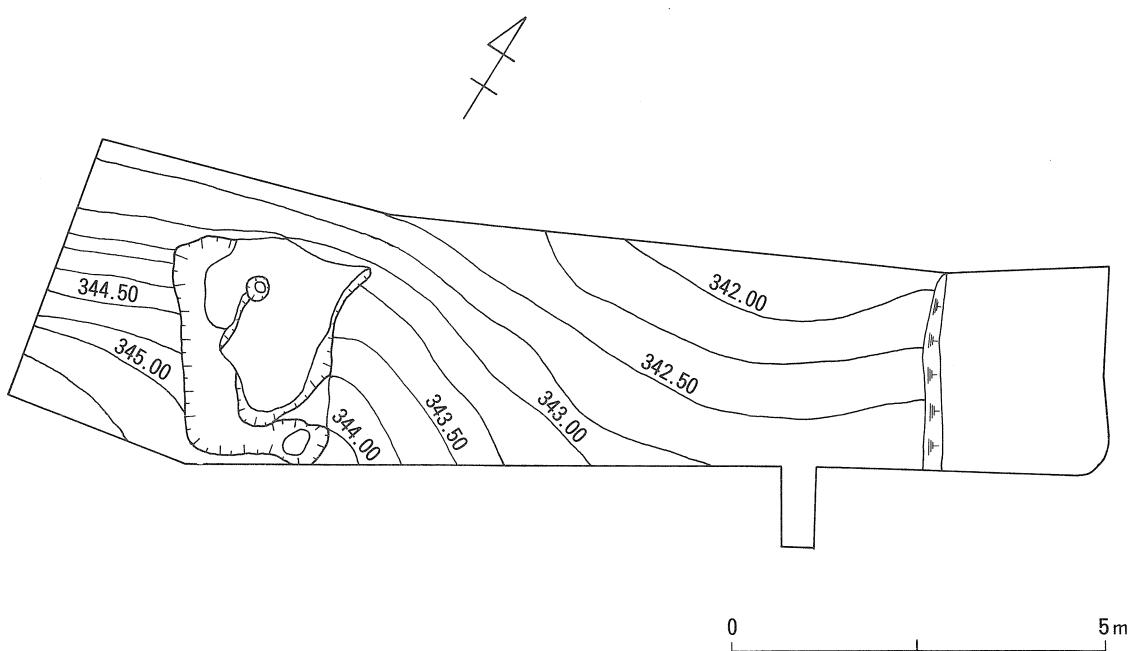
出土した遺物は、黒曜石剥片(ST1), 弥生土器片(Y2) それぞれ1点であった。ST1は地山上面約20cm



第5図 土坑実測図 (1 : 40)



第6図 第2調査区 出土遺物実測図

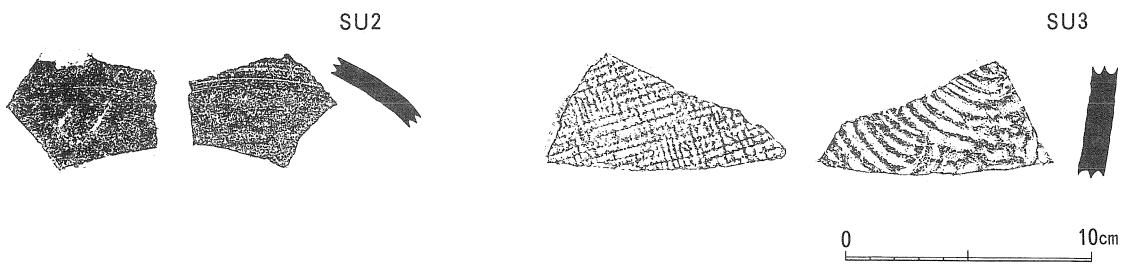


第7図 第2調査区 調査後地形測量図 (1 : 100)

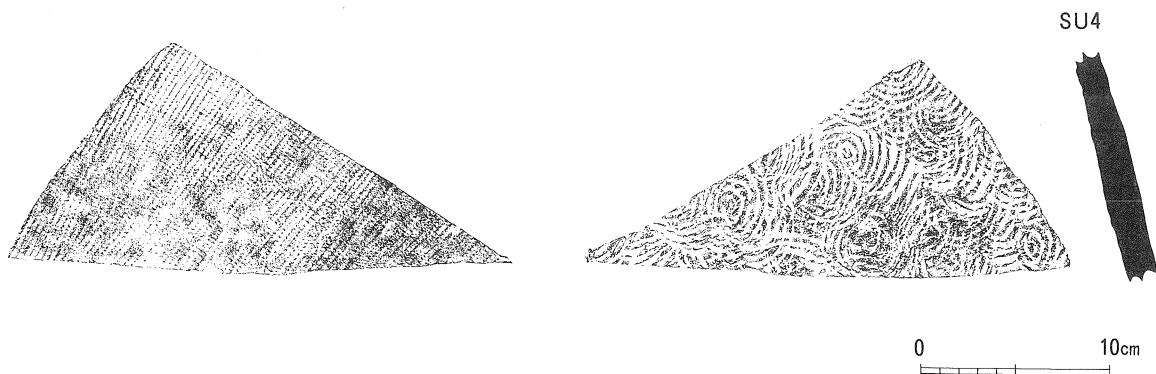
の茶褐色土から検出された。大きさは $1.4 \times 1.7\text{cm}$ 、厚さ約 2mm で、刃部等の加工痕は認められず剥片と考えられる。Y2は同じく茶褐色土から検出されたが、黒曜石よりやや上面から出土した。器種は不明であるが出土片は胴部下端で外面はナデ、内面はヘラケズリ調整が施されている。色調は外面が橙色で一部に煤が付着している。内面は淡橙色で器壁の厚さは $4 \sim 6\text{mm}$ である。胎土は密で $1 \sim 2\text{mm}$ 程度の砂粒を含み焼成は良好である。器形は僅かに外に屈折している。

3. 第3調査区（第8～11図、図版第6b、第9a～第10b）

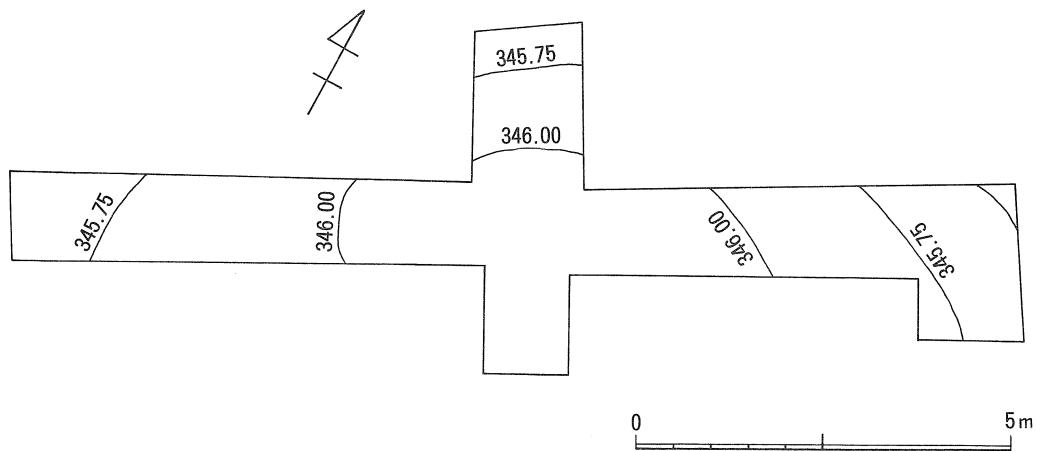
本調査区は東側の丘陵調部で、調査面積は 21.1m^2 である。層序は表土、茶褐色土、明黄褐色土（地山）である。茶褐色土層は第1調査区同様自然礫を含む。調査区内から遺構は検出されなかつたが、2か所から須恵器片（SU 2・3・4）が出土した。SU 2は調査区のほぼ中央部で出土した。小片であるが壺の肩の部分だと思われる。器壁の厚さは 7mm で、内外面ともにロクロビキの痕跡を



第8図 第3調査区 出土土器実測図①(1:3)



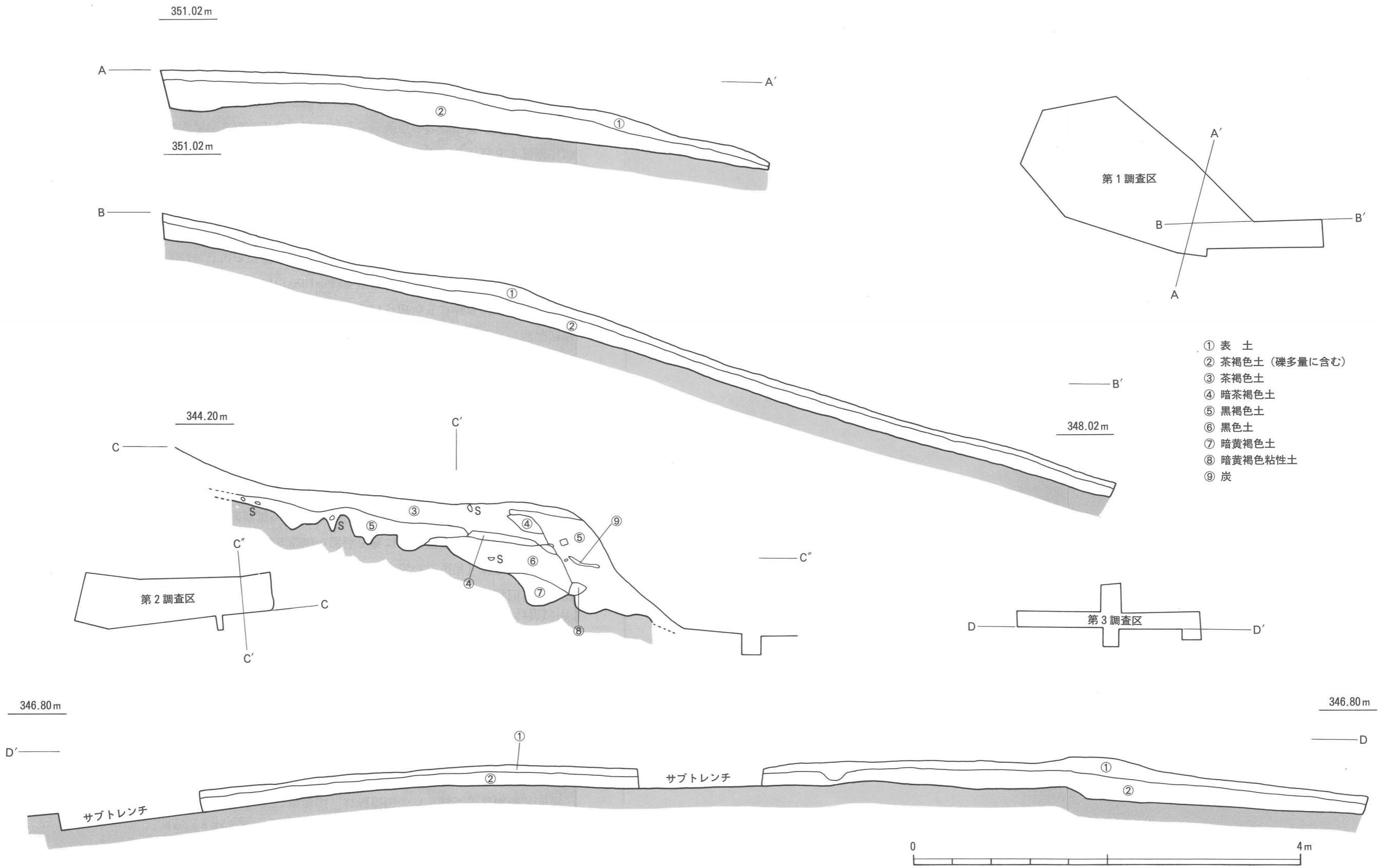
第9図 第3調査区 出土土器実測図②(1:4)



第10図 第3調査区 調査後地形測量図(1:100)

とどめている。色調は外面が淡灰色、内面が淡青灰色を呈する。胎土には砂粒を含み焼成は良好である。

SU 3 は調査区東端から出土した甕の胴部である。器壁の厚さは1.0~1.1cm外面を格子タタキ、内面は同心円状のタタキ調整が施されている。胎土は密で砂粒を含み焼成は良好、色調は青灰色である。SU 4 はSU 3 と同じ場所から出土した大型の甕で、器壁の厚さは1.4~1.5mmで外面を格子タタキ、内面は同心円状のタタキ調整が施されている。胎土は密で砂粒を含み焼成は良好、色調は青灰色であるが、タタキ痕の特徴や器壁の厚さがSU 3 と異なるので別々の個体である。



第11図 第1・2・3 調査区土層実測図 (1 : 40)

IV. ま　と　め

今回の小田遺跡の発掘調査は、農業集落道永明寺線改良工事に伴う緊急発掘調査で、道路改良予定地内約187m²を対象として実施した。調査により土坑1基と少量の弥生土器や須恵器が出土したのみであったが、今回の調査で得られた成果についてまとめておきたい。

1. 遺跡の立地および検出した遺構について

小田遺跡は瑞穂町役場から約1kmの距離に位置する。現地は通称、小田と呼ばれ西から東へ伸びる二つのピークから成る狭小な丘陵尾根上に遺跡が所在する。この丘陵尾根は東西に2つのピークからなり、西側（第1調査区）の標高は約351m、東側（第3調査区）は約346mで、その中間部が約343mの鞍部（第2調査区）となっている。この尾根を囲むように南北および東側には小規模な水田が広がり、西側は町道鱒淵永明寺線と農道永明寺線が合流している。合流点の西側は現在農地や宅地として開発されてるが、本来は遺跡が所在する尾根と一連のものであったと思われる。また、第1調査区南西側に長さ約20m、幅10m、深さ2mの戦後の土採取場や墓地がつくられていおり、著しく地形が改変されていることがわかる。

西側ピークは約30×15mの平坦部を有し第1調査区はその北端である。調査区内から遺構は検出されなかったが、出土した土器は他所から流れ込む可能性はないので、調査区南側の平坦部に遺構がある可能性がきわめて高い。また、近年の土採取場により一部破壊されているが、平坦部のほぼ中央部を横断するように長さ約15m、幅1.2～1.5m、深さ0.4mの溝状の掘り込みが表面観察で認められたが調査区外であるため詳細は不明である。周囲の地形から鉄穴溝や水路とは考えられず、意図的に平坦面を画すためのものではないかと推定されるが今後の課題としておきたい。

第2調査区の土坑は本遺跡内で検出された唯一の遺構であるが、遺構の性格や時代を推し測る遺物の出土もなく、性格は不明であるが、斜面を上部から直接掘り込んでつくられていることや、土坑の底部に傾斜をつけて掘られていることなどから、横穴墓や貯蔵穴とは考えられない。また、土坑の底部や壁面に幅約12～13cmの掘削工具痕が認められることなどから、水田の拡張や補修用の土を採取するために掘られたものではないかと思われる。

2. 出土遺物について

調査により弥生土器（Y1・2）、須恵器（SU1・2・3）、安山岩の剥片および黒曜石の剥片（SU1）が出土した。

Y1・2とも内面にケズリが認められることから、弥生時代後期の土器であると思われる。Y2は胴部の立上りが僅かに屈折状に外反しており、時期は後期前半である。ST1は理化学的な産地同定は行っていないが、色調から隠岐郡五箇村の久見産の黒曜石と推定される。

SU1・2・3は甕の胴部や壺の肩部であり、タタキやロクロビキの調整は認められるが、器形の特徴は不明である。しかし、これらの須恵器は、20基近くの須恵器窯跡からなる久永古窯跡群から出土するものと同様の調整痕が認められることから、8世紀後半から9世紀後半にかけて在地の

窯でつくられたものであろう。

註

(1)吉川 正 「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 1976年

図 版

図版第1



a. 小田遺跡全景（西から）

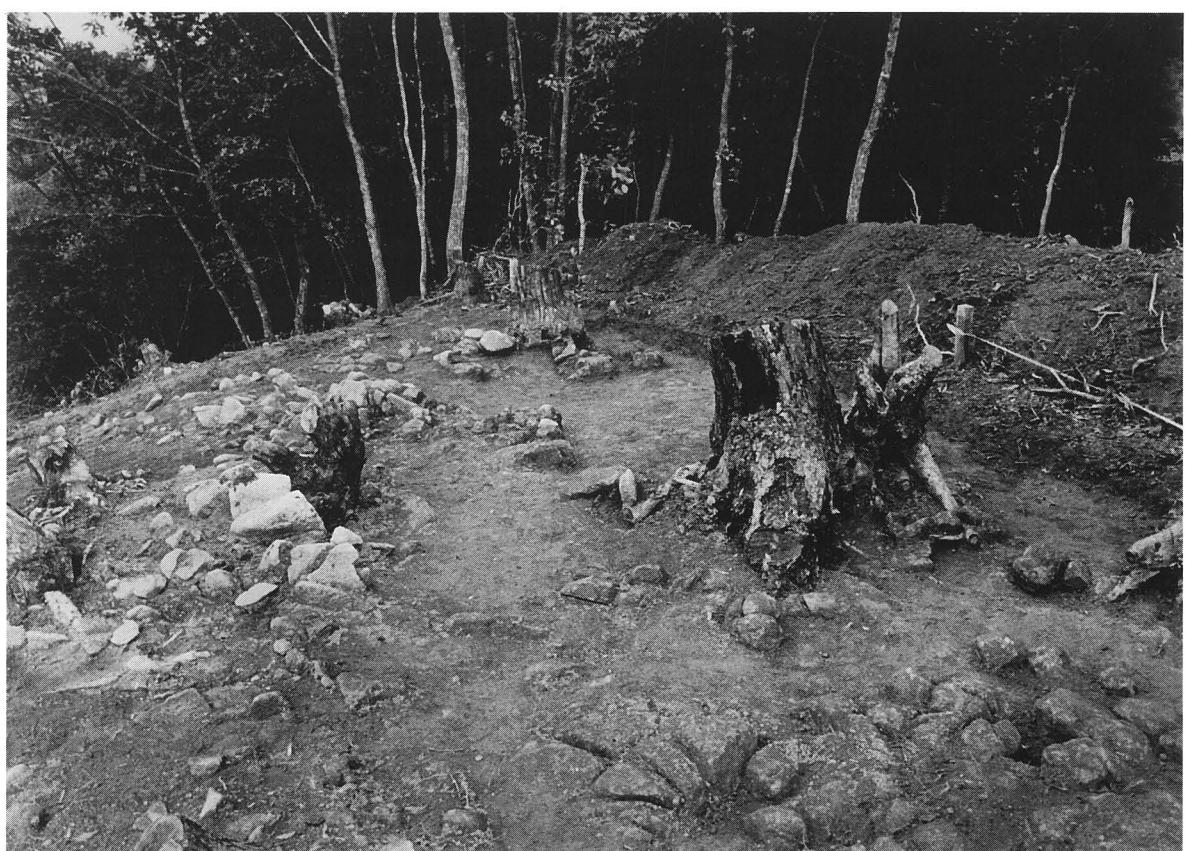


b. 同 (東から)

図版第 2



a. 第 1 調査区 完掘状況（東から）



b. 同 (西から)

図版第3



a. 第1調査区 完掘状況（西から）



b. 第2調査区 土坑土層断面（西から）

図版第 4



a. 土坑完掘状況（北から）



b. 第 2 調査区 東端崖面土層（北から）

図版第 5



a. 第 2 調査区 東端崖面土層（東から）



b. 第 2 調査区 完掘状況（東から）

図版第 6

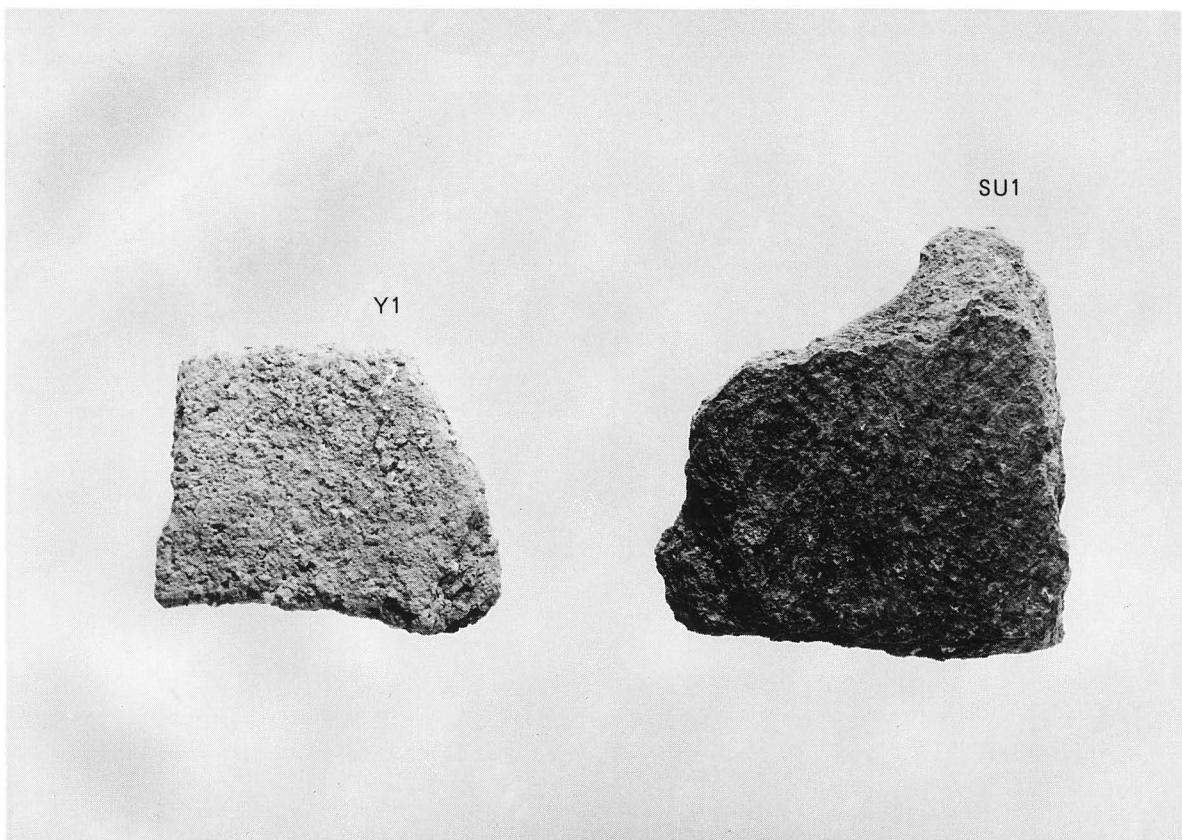


a. 第 2 調査区 完掘状況（西から）

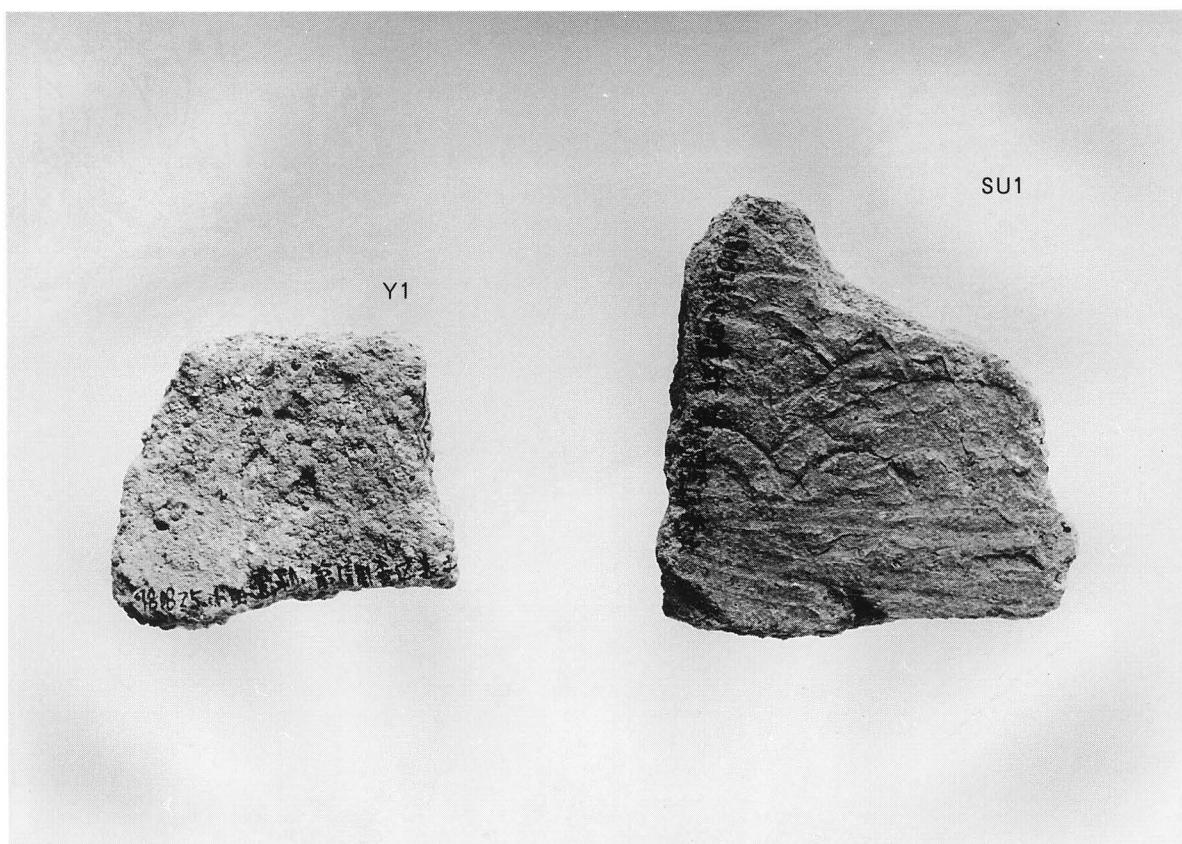


b. 第 3 調査区 完掘状況（西から）

図版第 7

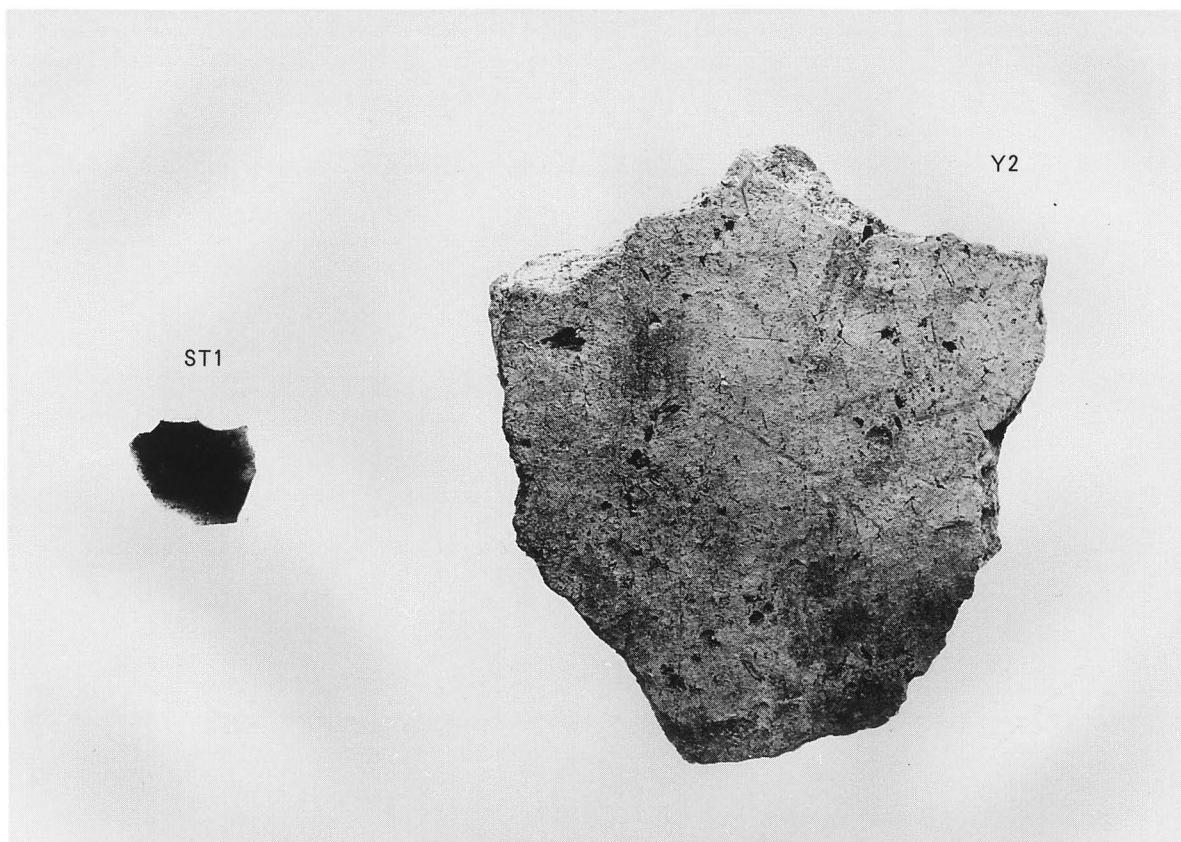


a. 第 1 調査区 出土遺物（外面）

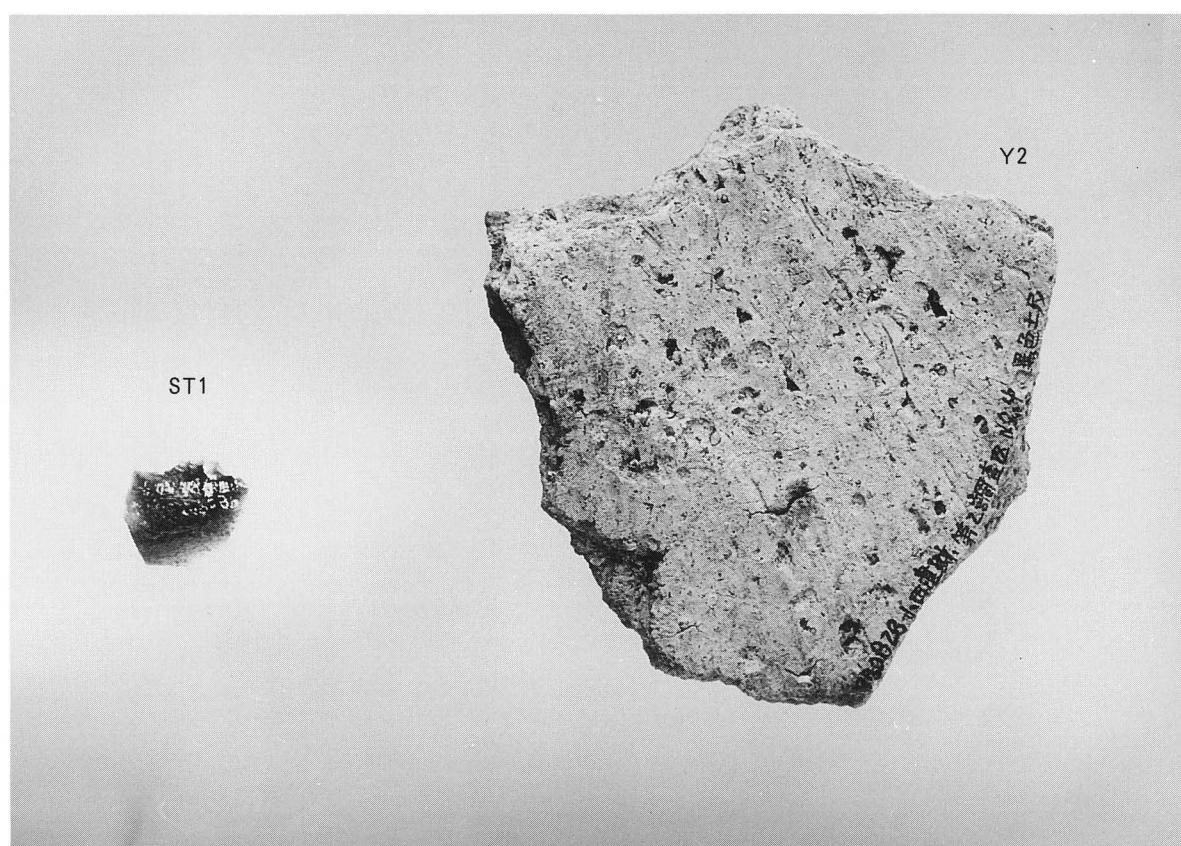


b. 同 (内面)

図版第 8

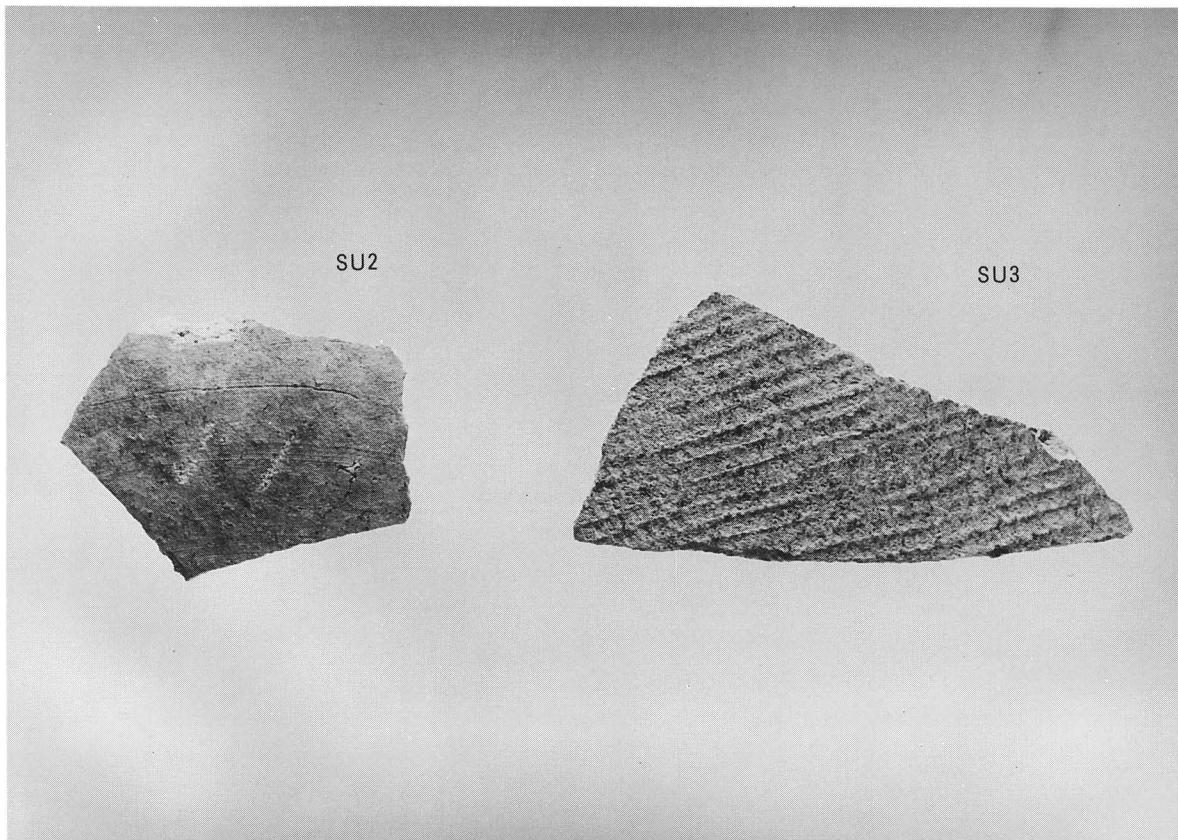


a. 第 2 調査区 出土遺物（外面）

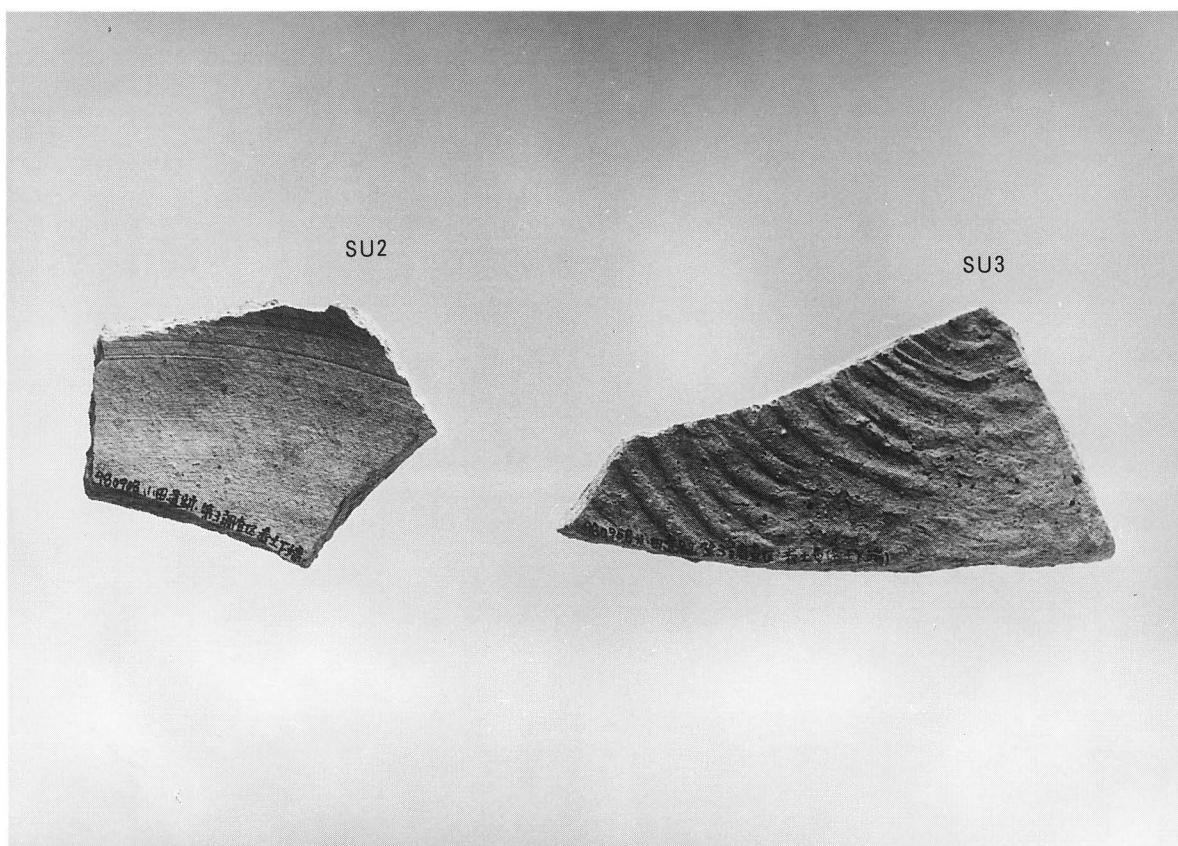


b. 同 (内面)

図版第9

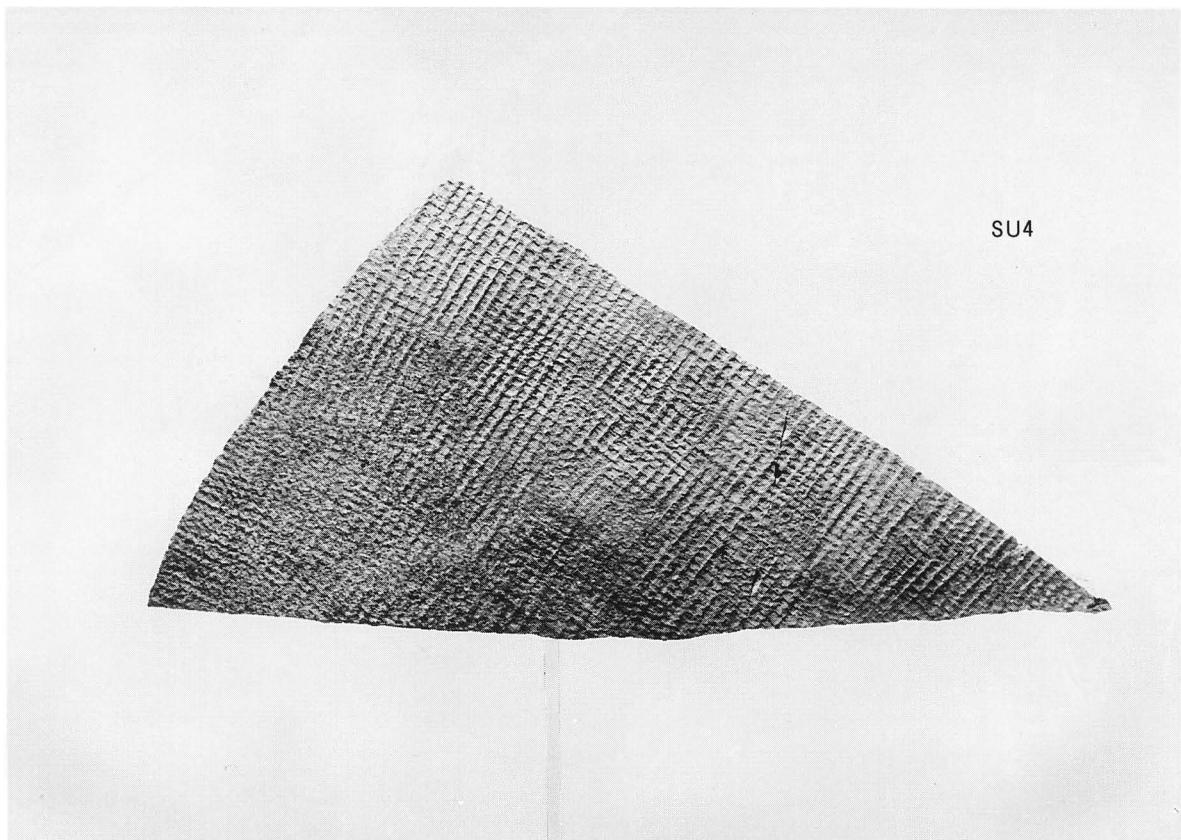


a. 第3調査区 出土遺物（外面）

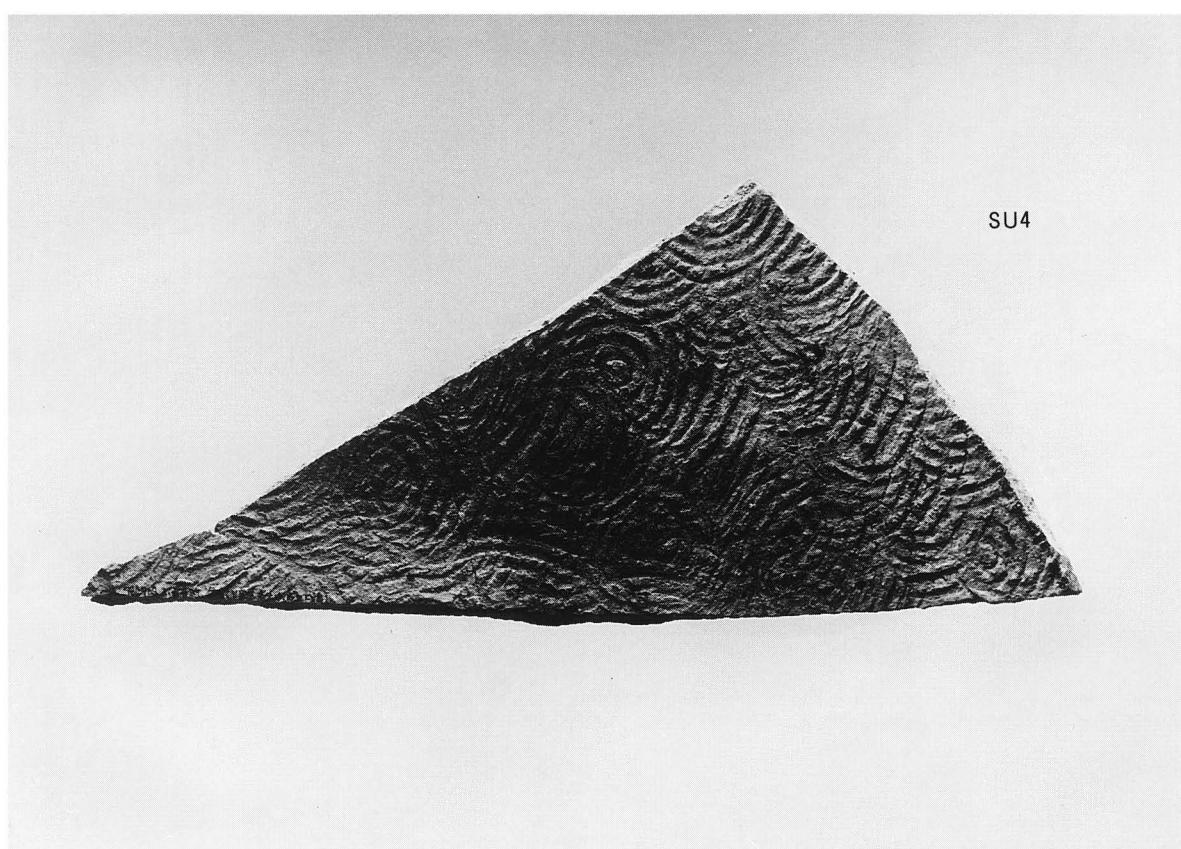


b. 同 (内面)

図版第10



a. 第3調査区 出土遺物（外面）



b. 同 (内面)

報告書抄録

ふりがな	こたいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	小田遺跡発掘調査報告書							
副書名	悠YOUおおち南地区県営中山間地域総合整備事業農業集落道路永明寺線改良工事に伴う発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第23集							
編著者名	森岡弘典							
編集機関	瑞穂町教育委員会							
所在地	〒696-03 島根県邑智郡瑞穂町大字三日市32番地 ☎0855-83-1128							
発行年月日	西暦 1999年3月							
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
小田遺跡	しまね おおち みずほ ますぶち こた 島根県邑智郡瑞穂町大字籌淵字小田 3061-1番地	32445		34度 51分 35秒	132度 31分 41秒	19980825～ 19981008	186.5	道路改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
小田遺跡	散布地	弥生 奈良	土杭 1	弥生土器 2 須恵器 4 黒曜石 1	遺物少量 土坑は近世 末から近代 初頭か			

平成11(1999)年3月

島根県邑智郡瑞穂町

小田遺跡発掘調査報告書

悠YOUおおち南地区県営中山間地域総合整備事業農業
集落道路永明寺線改良工事に伴う発掘調査報告書

編集・発行 島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印 刷 柏 村 印 刷 株 式 会 社